



決算審査意見書を提出 (8/19) ▶

監査委員として、令和7年度の決算審査意見書を山田村長に提出しました。

決算審査を通じて村政全般にわたって審査した結果と今後取り組むべき視点などについて意見交換しました。



山田村長に決算審査意見書を提出

◀村政報告会を開催 (9/6)

体調不良により延期となっていた村政報告会を開催しました。

これまで行政に提案し改善出来た事例やこれから提案しようとする内容等について報告。参加者の皆さんからも、多くのご意見や質問をいただき、有意義な報告会となりました。

参加者の皆さんに活動報告



古賀 亮佑さん
(舟石川駅東在住)

私は日頃、笠松運動公園でテニスを楽しんでいます。気軽に体を動かせる環境が身近にあることは、東海村の魅力のひとつだと思います。利用者としては、今後も施設や設備の整備が進み、より快適に利用できるようになることを期待しています。最近では、水戸ホーリーホックの拠点にもなり、スポーツへの関心や地域の交流が広がる良いきっかけとなると思います。

東海村がさらに活気溢れる村となるよう、おち議員のスポーツ振興への取り組みに期待しています。



編集後記

水戸ホーリーホックが悲願のJ1昇格を果たし、新たなシーズンを迎えた。また、ホームスタジアムもケースデンキスタジアム水戸から笠松運動公園の「水戸信用金庫スタジアム」へと舞台を移した。

笠松運動公園は東海村に隣接し、私たちにとても身近な施設である。全国から多くのサポーターが訪れるJ1の試合がすぐ近くで開催されることで、東海村もその「玄関口」のひとつになる。

試合を観戦して帰るだけでなく、村内に立ち寄ってもらう。食事を楽しんでもらう。そして、東海村を知ってもらう。スポーツが生み出す新たな人の流れを地域の賑わいや交流にどうつなげていくのか。J1昇格を機に、東海村にも新たな可能性が広がっている。(す)

新・舟石川保育所を整備しています



舟石川保育所は昭和50年の開所から約50年が経過し、施設の老朽化が進んでいることに加え、入所保留児童の減少に向けた受け入れ体制の強化が課題となっています。

そこで村では、舟石川小学校向かい側の敷地に園舎を移転・建て替えし、**令和9年4月の開所**に向けて整備を進めています。

新しい保育所では、定員を現在の**70人から115人へ拡大**するとともに、これまで1歳6ヵ月以上としていた受け入れ年齢を**生後6ヵ月からに拡大**します。さらに、一時預かりや地域子育て支援事業、「こども誰でも通園制度」なども予定されており、地域の子育てを幅広く支える施設として生まれ変わります。

今後も、安心して子どもを産み育てられる環境の充実に向け、必要な施策を求めています。



新しい保育所のイメージ図

台風被害による生産者の復旧に係る補正予算を可決

令和8年9月定例会を9月1日から28日までの会期で開きました。
今議会では、令和7年度の決算審査ならびに台風6号により被害を受けた生産者の復旧に係る補正予算など25件の議案が提案されましたが、慎重審議の結果、すべて原案のとおり可決しました。



去る6月3日、台風6号が関東地方を直撃し、東海村でも倒木や冠水による通行止めのほか、農業用ビニールハウスの損壊が34件発生しました。
村では、被害を受けた生産者を支援するため、ビニールハウスの復旧に必要な経費の一部を補助する予算を計上しました。こうした自然災害による復旧費用を村単独で支援する取り組みは今回が初となります。
一方で、今後同様の災害が発生した際、どのような被害を対象に、どの程度の規模であれば村として支援するのか、その判断基準は定められていません。必要な支援を迅速かつ公平に行うためにも、一定の判断基準を整理しておく必要があると考えます。

令和7年度決算審査を終えて

今議会では、令和7年度の決算について集中審査しました。決算とは、村民の皆さまが収めた税金を村がどのように使ったのか?ということ細かくチェックするものです。
おち議員は監査委員の立場で決算審査に対応し、主に以下の事業等について決算審査意見書に記載し、執行部に対して改善を求めました。



○ 緑地の保全および緑化推進

「緑化審議会」を設置しているが、村民の森や保存樹木の指定等のみが審議事項となっている。村全体を見れば、区画整理事業の推進や斜面緑地への太陽光パネル設置等に伴う緑の減少を懸念する声もあることから、緑地の保全および緑化推進を図るため、**審議会のあり方を含めて検討すべき。**

○ 一人暮らし高齢者の緊急通報システム

本事業の対象者は65歳以上の高齢者のみの世帯とされており、また固定電話の設置が必須条件となっている。しかし、近年は、固定電話を狙った特殊詐欺や悪質な営業勧誘等が急増しており、**固定電話に依存しない仕組みの導入**など時代の変化に対応した利便性の高い緊急通報システムへ見直しすべき。



越智議員の一般質問

一般質問とは・・・

住民を代表し、村政全般について村長など執行機関の考えや方針を問い質すものです。



▲録画中継はこちらから

自転車の安全教育は継続すべき重要な教育活動

Q. 学校現場における交通安全教室では、自転車の交通ルールや正しい乗り方について、どのような指導を行っているのか。

A. 小学校では交通安全講話やDVDなどを活用し、交通ルールを中心に学習している。また、東海中学校ではグラウンドで安全走行や技術走行を取り入れた実技指導を、東海南中学校では学校周辺の村道や交差点で実技指導を実施している。
こうした取り組みを通して、自転車の正しい交通ルールや安全な利用方法についての教育に努めている。

Q. 本村では大半の中学生が自転車通学である。こうした安全教育の機会は、今後もしっかり確保すべきではないか。
また、中学1年生に配布する通学用ヘルメットがスポーツタイプに変更されたが、生徒の受け止めや着用状況に変化は見られるか。

A. 自転車の安全教育は、次年度以降も継続して実施すべき重要な教育活動であると考えている。
新しいヘルメットについては、生徒から「軽い」「通気性がいい」など好意的な意見があり、学校や保護者からも「通学時だけでなく休日でも積極的な着用が見られる」との声を聞いている。



地域の「見守りの目」を広く、太く、重層的に



Q. 認知症に伴う徘徊と思われる方を偶然発見した際、どこへ連絡し、どのように対応すればよいのか。住民が迷うことなく行動できるよう、分かりやすく周知されているのか。

A. 住民の方が徘徊している高齢者を見かけた際は、優しく声をかけ、安全を確保したうえで警察へ連絡していただくこととなる。
これまでも認知症サポーター養成講座などを通じて周知してきたが、より分かりやすい情報提供に努め、住民の理解促進につなげていきたい。

Q. 当初は新たな仕組み（ツール）の構築が必要ではないかと考えていたが、それ以上に私たち一人ひとりが認知症について理解し、日常生活の中で「もしかしたら困っているのでは」と気づき、声をかけ、必要な支援につなぐことが大切ではないか。
こうした「住民の目」「地域の目」を養い、地域ぐるみで見守るセーフティネットをつくることが重要と考えるが。

A. 村では以前から認知症サポーター養成講座等に多くの方が受講されており、行方不明高齢者を実際に発見してくださる方には受講生も多く、講座の効果が表れていることを実感している。
引き続き、地域の見守りの目、セーフティネットを広く、太く、重層的にしていきたい。